

ツボワムシ(*Brachionus calyciflorus*)の大量培養技術

太田 滋規

◆背景・目的

淡水産ワムシは、本県の栽培対象種の種苗生産における初期生物餌料として欠かせない。これまでは粗放的な施肥培養により生産していたが、時には不安定であり、長期間の生産にはいくつもの培養池を必要とした。そこで、海産ワムシ類の連続培養を応用してツボワムシの大量培養技術の開発を行った。

◆成果の内容・特徴

- 株保存培養から拡大培養をへて大量培養にいたる一連の手法を確立した。
- 株保存培養は500mL瓶で1週間間隔の植え継ぎ培養により5,000個体程度で維持する。
- 拡大培養は10Lおよび100L槽の2段階で行い、1億個体程度まで培養する。
- 大量培養は連続注水、連続給餌、ケモスタットの管理を基本とし、連続培養および改良間引き培養により培養する。

◆成果の活用・留意点

- ツボワムシの大量培養は従来の粗放的な施肥培養に比べ、集約的に大量かつ継続して周年の培養が可能となった。

